

双葉でナノ製品量産へ

アルメディオの新工場

地元雇用10人程度

オーテイオやコンピュータ
ターなどのテスト用プロダク

工場完成予想図
(アルメディオ提供)



ラムで世界的な市場占有率を誇るアルメディオ(東京都)は、双葉町の中野地区復興産業拠点に新設する福島双葉工場で、新規事業として取り組んでいるナノ製品の量産に着手する。10日、現地で新工場の地鎮祭を行った。

福島双葉工場で製造するのは、航空・宇宙産業や自動車産業など幅広い産業で注目が高まっているカーボンナノファイバー。炭素でできた直径200〜800ナノ(ナは10億分の1)、長さ1〜15ミクロン(ミは100万分の1)の繊維状の材料で、樹脂の強度や弾性を高めるほか、自動車の自動

運転技術に用いられる電波

を吸収したり、遮蔽することができると期待した。

地鎮祭の後、高橋靖社長は取材に「既存事業が衰退していく中で、新しい事業としてナノメテリアル事業を始めた。いわば復興に似たところがあり、双葉町と一緒に発展させていきたい」と語った。

伊沢史朗町長は「とても未来がある企業だと感じている。新規事業がますます認知されれば、さらに発展する企業になると確信している」と期待した。

工場は鉄骨1階建てで延べ床面積は約2500平方メートル。来年1月28日着工、同8月15日の完成予定。整備する工場では10人程度の地元雇用を見込んでおり、工場のさらなる増設も視野に入れている。